

初めてお手紙を差し上げます。

絵本作家の刀根里衣と申します。今回、国際交流基金フダペスト日本文化センター様より、世界中から愛されている絵本作家の大先輩のマレーク様とお手紙のやりとりをさせていたたく機会を頂戴し、少し緊張しつつも大変嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私は小さい頃から絵本を読むのが好きで家にはいつもたくさんのお絵本がありました。そしてマレーク様の代表作でもある「ラチとらいおん」の絵本も私の愛読書の中にあり、何回も読み返しておりました。ラチが小さなライオンの長いしっぽをリードのように手に持っているのが、

子供ながらにかわいらしく、おかしかった記憶があります。

また、私事で恐縮ですが、現在二歳半になる息子がおりまして、絵本がたくさんある環境で育ててほしいと思いで、できる限りたくさんさんの絵本を棚に並べてあります。その中に、クマのブルンミシリーズもあり、クマが大好きな息子は、

「くっついん！」（息子の言葉で日本語の「くまちゃん」を指しています。）と言ってブルンミを指さしています。特に「ブルンミのたんじょうび」が大好きで、ベッドに持っていく絵本の中の二冊です。ブルンミが泣いたり怒ったり笑ったりと表情が変わるのと、コップを持っているシーン、最後に車に乗っているシーンがお気に入りのお様子です。

世代を超えて語り継がれていく絵本というのは、まさに
こういうことを指すのたろうなと思います。現在、先進国
は消費社会となり、どんどん新しいものが出てきて、
残念なことに使い捨てが当たり前前の時代になってしまいま
した。その中で、変わらず長い間愛されている絵本という存
在は特別な気がします。そのような絵本は、きっと子供達
だけではなく、親達の心の中にも何年経っても響き続け
ているのだと思います。そのような絵本をいつかつくるこ
とが私の目標でもあります。

マレーク様の出身地でもあるブダペストに初めて訪
れたのは、今から約十五年前のことでした。そのときは観光

で訪れたのですが、おもろやの世界から飛び出してきた
ような美しく、可愛いらしい街並みに一目惚れしてし
まったことをよく覚えております。それから何年かして、
ブダペストで子供達にワークショップをさせていただけ、ハン
ガリーの読者と知り合う機会もいただきました。ハンガ
リーの方達はとても優しく温かいですね。実は、既に三回も
ブダペストでワークショップを開催しております。毎回、また
戻ってきたい！という気持ちになります。子供達もとても
純粋ではにかんだ笑顔が印象的でした。

ワークショップなどで子供達と触れ合うことがあると、私
の方がたくさんのことを教えられます。そして、自分も絵

本作家として初心に戻らないと、という思いになります。

子供達の無限の想像力と純粋さ、まっすぐさには敵いません。そんな子供達の心に届くような絵本をつくるには、まだまだ学ばないといけないことがきつとたくさんあるんだと思います。マレーク様はたくさん名作を世に生み出されてきて、世界中の子供達に愛されていますが、このような名作は一体どうやって生まれたのでしょうか？また、国立人形劇場のスタッフとして働かれていたという経歴を拝読したのですが、その時の経験もやはり作品づくりに生かされてきているのでしょうか？

ハンガリーでもそろそろ春の気配が漂い始めた頃で

しょうか。こちらイタリアでもお母が咲き始め、真冬の
コートなしでも外に出ることができ、日が増え、ま
した。新型コロナウイルスが終息する気配はなかなか
見えませんが、このような状況が一日も早く解消される
ことを切に願っております。

最後になりましたが、マレーク様、ご家族の皆様ともし
もお体を大事になさって、どうかお元気でお過ごし
ください。

敬具

令和三年 三月十日

刀根里衣

マレーク・ヴェロニカ様

